

### 第36回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和8年3月26日(木) 15時00分～16時30分まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員9人・事務局9人・計18人
- 傍聴者 無
- 次第
  1. 開会
  2. 市民憲章斉唱
  3. 挨拶(井上会長)
  4. 挨拶(図書館長)
  5. 議事
    - (1) 令和7年度事業の進捗について
    - (2) 令和8年度当初予算について
    - (3) 令和8年度事業計画について
  6. 報告事項
  7. 閉会

- 会議の概要(発言内容については要旨を記載)

- 議事

(議題1 令和7年度事業の進捗について)

- ・事務局説明

委員 多岐にわたる活動を展開していただき、前年度を上回る活動が多々あり、職員の皆様の努力に敬意を表します。バリアフリー法に即した図書館利用に障害のある方々への様々な取り組みを各館で展開されていることについては、3月17日に文部科学省が「図書館が拓く未来の学びと地域社会(報告書)」を公表され、この中でもユニバーサルアクセスの実現が今後のサービス構築に向けた方策の柱の一つとなっている。そういった展開に即して取り組みを既にされ、大変素晴らしいと思う。6ページの市民とともに作る図書館については、学生ボランティアの受け入れについても、学生のキャリア形成や次世代育成支援という事で、学生にとってたいへん貴重な経験を積ませていただいております、感謝を申し上げます。

委員 小中学生の図書館利用の推進について、学校園との連携に力をいただいていると感じた。資料1の4ページの移動図書館の小学校スポット巡回の実施、学校図書館リニューアル支援について詳しく教えてほしい。

事務局 小学校のスポット巡回については、定期巡回をしていない小中学校に対して10月から11月にかけて移動図書館での貸出や本を見る体験をしていただけるものである。小学校からは毎年申し込みをいただくが、中学校はなかなかスケジュールが合わず申し込みがない状況でもあるが、図書館からぜひ行かせていただきたい

と思っている。また、リニューアル支援については、毎年度初めに小中学校へ案内し、小中学校の学校図書館の選書や排架、見出しの工夫、除籍などについて図書館職員が、申込みのあった小中学校へ各校年3回ほど支援に出向いている。

委員 資料1の5ページ令和8年度の事業計画の、成長段階に応じた読書環境の整備充実の新規事業として乳幼児向け「おたんじょうびパック」について、小さなころから本に触れることを重点に置かれているところが良いと思った。事業内容を教えてほしい。

事務局 乳幼児向けおはなし会を実施しているが、おはなし会より更に気軽に参加していただけるような事業を実施したいと考えている。

(議題2 令和8年度予算 議題3 令和8年度事業計画について)

・事務局説明

委員 和邇図書館の天井落下防止工事の時期や休館中の業務について、予約本の受け取りをエントランスで行うとか、移動図書館の巡回により休館中のサポートを期間限定で実施されるのかなど、もう一度説明をお願いしたい。

事務局 契約締結は次年度となるが、工事期間は約6か月で、10月から3月中旬頃になると想定している。予約本の受け取りについては市内各館での受け取りや受取場所を移動図書館のステーションに指定していただければ、ステーションをご利用いただける。和邇図書館の開架室は工事のため入館していただけないが、本の返却や予約本の受け渡しを事務所側で行えるよう考えている。移動図書館はこれまで通りの巡回とする。また、和邇図書館の休館中は、北部地域の小中学校の学校図書整備・充実支援に当館職員の派遣を検討している。その他にも郷土資料と高齢者サービス充実を図っていきたいと考えている。

会長 今年空調設備工事を実施されているが、大規模改修工事として、外壁、屋根、LED工事などの予定はあるのか。

事務局 和邇図書館天井落下防止工事の経費の中に、開架室の照明器具のLED化費用も含まれている。屋根については平成29年修繕済である。外壁は鉄筋コンクリートのタイル張り仕様であり、汚れは目立つが剥離などはない。

会長 外壁の大規模改修はまだ実施されていないということか。

事務局 大津市では公共施設マネジメントの中において、施設改修に関する対応方針に基づき優先順位により実施検討されていくこととなる。

会長 金額が大きかったためハード面のお話を伺ったが、ソフト面についてはいかがか。

委員 0、1、2歳の取り組みについて、小さいうちから本に触れる機会はとても重要だと思っている。幼稚園ではなかなか費用がなく、図書館からの定期配本は大変ありがたい。小中学校へのリニューアル支援のように、未就学園でも同じような支援は受けられるのか。

また、市立図書館は和邇、北、本館とあるが、当園はかなり南にあり、市民が公平に図書館に関わることができるような機会があればいいのと思う。

幼稚園には地域のボランティアの方に絵本の読み聞かせをしていただいている。図書館でのボランティア活動についてどのような活動をされているのか教えて欲しい。

事務局 リニューアル支援の案内は小中学校向けにしているが、未就学園についても図書館へご相談いただければと思う。

事務局 市民が公平に利用できる、身近に図書館を感じられる取り組みについては、現在移動図書館で2週間ごとに市内47か所を巡回させていただいている。また、商業施設や自治会等からのご要望により出前巡回も実施させていただいており、ぜひご利用いただけたらと思う。図書館の場所については、南部には市立図書館の南郷分館のほか、滋賀県立図書館がある。瀬田方面へも移動図書館でお伺いしているが、周知・情報発信についても合わせて取り組んでいく。

事務局 本館においては、一般の方からの募集に基づいたボランティア活動していただいている機会が少ないのが現状であるが、学生ボランティアや読書活動サークル団体の方に朗読会を開催していただく活動をしていただいている。

会長 ボランティアについては、以前にお話させていただいたかもしれないが、女性の就労状況の変化で、これまでボランティア活動の多くを担っていただいていた30～40代の方や60代の方も就労されている方が多くなり、ボランティア活動をしていただける方々も少なくなっている。市民協働の中で色々と呼びかけていただき一緒に取り組んでいただける機会があればと思う。

また、全域サービスの観点では、大津市は北から南まで長く、南部には南郷分館があるが、建物の制約もあり、和邇図書館や北図書館と同じような活動規模での運営は難しいと思う。移動図書館以外に配本など、高齢化が進行する中で、図書館への来館が難しい方へのサービスも検討していただけたらと思う。

委員 中学校へも様々なご支援をいただいていることに感謝を申し上げる。学校においても読書活動の充実についても取り組んでいるが、子どもたちの情報収集の手段が多岐にわたっている中において、中学生自身が非常に忙しい毎日を過ごしている。その中で本を読むという時間が取れていないというのが実情なのだと思う。また、学校現場においては職員数が非常に厳しく、働き方改革にも取り組む中で図書館の充実といったところに教員が動き出せないという状況が最近非常に顕著になってきている。このような中で先ほどの学校図書館リニューアル支援に図書館から来ていただけるのは非常にありがたく、今後ご支援を賜りたいと思う。毎日忙しい生活を送っている中学生が図書館を利用させていただくことが難しいところがあるため、様々な催しの開催などにより、子どもたちを引っ張り出すような取り組みを一緒に考えさせていただけたらと思う。

事務局 今年度初めて小学校高学年から中学生限定で催しをさせていただいた。予想以上に多く、対象の全学年、市内全域からまんべんなく参加いただいた。今後もそういった連携を続けて、図書館の方から学校に出向いた活動を増やしていきたいと思っている。ぜひご協力をお願いしたい。

- 委員 小学校も図書館見学や団体貸出、移動図書館など多岐にわたり大変お世話になっている。小学生も読書の時間を取っているものの、集中して読める子と本を置いているだけの子など個人差が大きい。読書離れと言われているが、本の好きな子は図書館を利用したり、移動図書館で何十冊も借りる。本を見るというより本を読むというところに力を入れるようにしているが定着が難しい。今は、ネット社会と言われ、見ているだけでも情報が手に入る時代にもなり、本を読むことが面倒くさいというのが先に立ってしまう。就学前の段階から親も取り込んで本を読むことの必要性を理解していただくことの難しさを感じている。
- 事務局 小学校には電子図書の活用もぜひお願いできたらと思う。全国の自治体の約3分の1程度は電子図書館を導入されている。GIGAスクールで1人1台タブレットを利用していただいているところであり、各学校により利用差はあるが、電子図書を授業でたくさんご利用いただいている学校もある。同時に複数人がアクセスできるマルチライセンス型コンテンツというものがあり、ぜひ授業で活用していただきたいと思う。
- 会長 資料1の1ページや令和8年度の事業計画の中でも、マルチライセンス型コンテンツの拡充とあるが、もう少し詳しく教えてほしい。
- 事務局 電子図書館では約6,000コンテンツを維持している。貸出、予約ともに1人3冊まで可能で、読み終わるまでは次の方は待っていただくことになる。マルチライセンス型コンテンツは、同時に複数のユーザーが閲覧できるため、授業で先生と子どもたちが同じ資料を見ながら学習することができるため、ぜひ活用いただけたらと思う。
- 委員 地域の団体に所属している。4月に出前講座で「大津の歴史が面白い」というテーマで講演に来ていただく。今年度は坂本城の史跡の発見があり、大津の成り立ちに興味をお持ちの方が増えてきた。家庭でも話題となり語り合えることで、子どもたちにも良い影響があれば良いなと思う。図書館には歴史の資料が多いように思うので、図書館の利用啓発ができたらと思う。
- 委員 0、1、2歳の絵本について、大津市のひろばでは1日1回は絵本を読む時間を設けることになっており、それ以外にも月1回のおはなし会を開催している。おはなし会に来られる保護者は子どもに本を読み聞かせたいと思っておられる方が多く、保護者にもどうやって絵本を読んだら良いかなどを知っていただく目的もある。広場に来られる保護者の方は教育熱心の方が多く、比較のご家庭おいても本に触れる機会も多く、図書館も利用されているのではないかと思う。幼稚園の読み聞かせボランティアでは、最初の1年間は家で本を読んでもらっている子どもと読んでもらっていない子どもの差が大きくあったが、毎日、毎週、毎月のように絵本の時間として子どもたちに読み聞かせを何年か続けていると、卒園する頃には絵本に親しむ下地ができる。すべての家庭で同じように読んでいただくことは難しいため、保育園・幼稚園で頑張っただけなら、色々な子どもたちが絵本に親しむ土台ができるのではないかと思う。

- 会 長 就園率が5歳児では95パーセントを超え、加えてどこでも誰でも通園制度も開始され、保育が必要ではないと認定された方も保育園を利用できるようになり、一段と保育園や幼稚園は重要な読書環境になっていくと思う。
- 委 員 資料1の3ページ、まちと図書館をつなぐ事業の展開として、大津百町館が今年度末で閉館となるが、湖都の葉マルシェは今後も継続していただけるのか。
- 事務局 令和7年度は商店街との連携もあり、産業観光部が主体となって開催し、「文学のまち大津」のブランディングの1つとして、文学をテーマにしたキックオフイベントとして開催されたものである。来年度は市民部で湖都の葉マルシェを開催する予定であり、図書館へも協力依頼が届いている。イベントの機会に合わせて図書館の利用促進を図りたい。
- 委 員 資料3-1の令和8年度の数値目標について、滋賀県の貸出冊数は2位で1人あたり7.41冊、蔵書冊数は全国3位で1人あたり7.13冊となっており滋賀県は優秀である。大津市は1人あたり4.66冊となっている。大津市は人口が多いからなのか。
- 事務局 滋賀県内は市町村合併の関係もあり図書館数は多く、身近に図書館がある県でもある。大津市は市域が広く人口も多いことから滋賀県のレベルは高いが、人口20万人以上の中核市の都市比較でみると、大津は中間程度に位置している。図書館が身近にある小さい町と比較すると1人あたりの貸出冊数は少なくなってしまう。
- 委 員 おはなし会の開催回数や来館者数の令和8年度の数値目標を増やしておられ感謝している。
- 事務局 来館者数については様々な取り組みを継続して一定の成果があるが、貸出冊数については減少している。詳細な分析は必要だが、以前は1人の方がたくさんの本を借りていただいていたが、現在は上限15冊いっぱいまで借りられる方が少なくなってきたのではと推測している。
- 委 員 令和5年度実績で3.86冊。令和6年度実績で3.8冊。15冊借りられるということをご存知でない方が多いのかとも思ったが、周知が必要なのではないかと。
- 会 長 3.8冊とかいう数字は全国的な平均値で、例えば高齢の方は5冊で1か月借りたい、子ども連れの方は1週間でいいから20冊、30冊借りたいなど、利用される年齢層や目的によっても貸出冊数の捉え方は難しい。図書館年鑑で全国的な数値をご覧いただくことができるので、大津市の位置も把握いただけるかと思う。今年度は1月末時点であり、次年度の年度末実績をもとに改めて検証いただくことができる。今年度の現時点では1月末時点の数値になり、今年度の実績が確定して、また検証していきたいと思う。

〔報告事項について〕

- ・令和8年度人事異動及び当協議会開催日程について事務局より説明。

- 委 員 前回の会議終了後に1点質問し、次回回答いただけるようお願いしていた回答について。夏の暑い期間、開館時間を変更するような計画や見直しの予定はあるか。

事務局 昨年も夏の猛暑が続いたが、現時点では全庁的にも計画されていない。

会 長 人事異動もあり各館の体制が変わるが、引き続きよろしく願います。